Ⅱ　調査結果の概要

1　入込観光客の概況

（1）入込観光客数

①　平成１６年の入込観光客数

入込観光客数　　３，９３６万人　　（前年比　＋１．１％）

平成１６年の入込観光客数は，３，９３６万人で，前年と比べて４１万人（１．１％）増加した。全県的な増減要因としては，大型観光キャンペーンの実施による増加，週末に台風等の悪天候が多かったことによる減少が考えられる。

②　入込観光客数の推移（表１，図－１）

平成元年以降の本県の入込観光客数は，ほぼ順調に推移し，「海と島の博覧会」が開催された平成元年に３，０００万人を超え，「瀬戸内しまなみ海道」が開通した平成１１年には，はじめて４，０００万人を上回った。

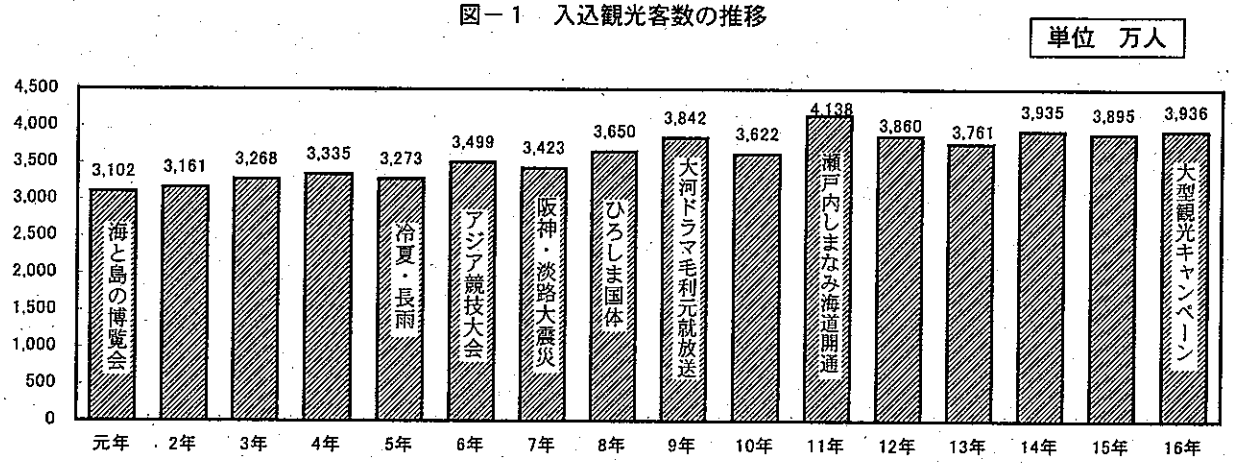
平成１６年は平成１１年に次ぐ入込観光客数となっている。

表－１　入込観光客数の推移

（単位　万人，％）

区　分	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
入込観光客数	3,102	3,161	3,268	3,335	3,273	3,499	3,423	3,650	3,842	3,622	4,138	3,860	3,761	3,935	3,895	3,936
対前年比	110.7	101.9	103.4	102.1	98.1	106.9	97.8	106.6	105.3	94.3	114.2	93.3	97.4	104.6	99.0	101.1
元年基準の指数	100.0	101.9	105.4	107.5	105.5	112.8	110.3	117.7	123.9	116.8	133.4	124.4	121.2	126.9	125.6	126.9

図－１　入込観光客数の推移



（２）地域別入込観光客の状況

①　市町別入込観光客の状況（図－２）

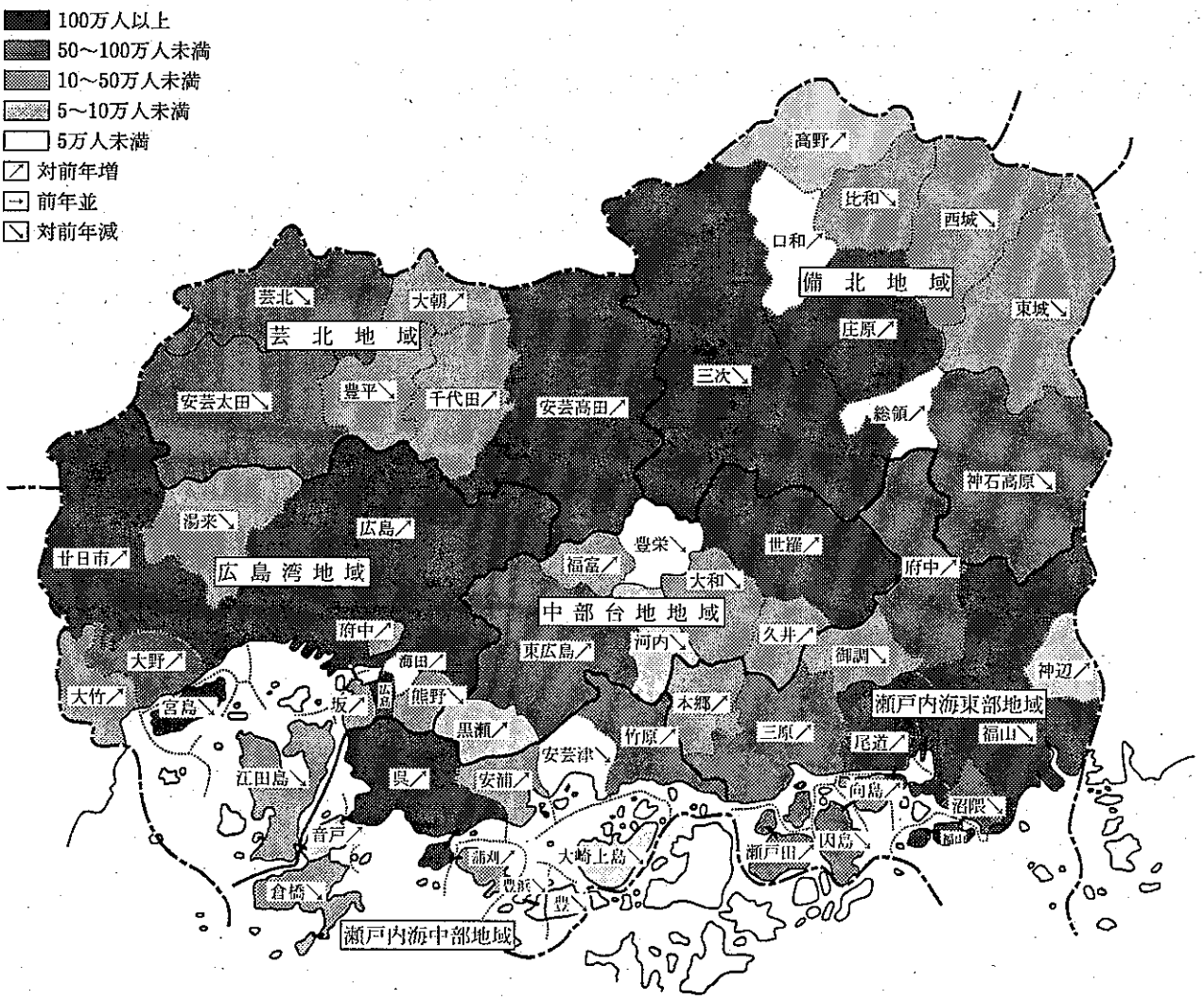
１００万人以上	１０市町
50～100万人未満	１１市町
10～50万人未満	２１市町
5～10万人未満	6町
5万人未満	7町

市町別に入込観光客数を見ると，広島湾地域の広島市及び宮島町，瀬戸内海東部地域の福山市，尾道市，瀬戸内海中部地域の呉市などを中心として，観光客の入込みが多いことがわかる。

なお，前年に比べて入込観光客数が同程度あるいは増加した市町は３１，減少した市町は２４である。

図－２　入込観光客の市町別状況（平成16年）

平成１６年１２月３１日現在



② 主要観光地別入込観光客の状況

主要観光地の入込観光客数の上位１０市町は，次のとおりである。

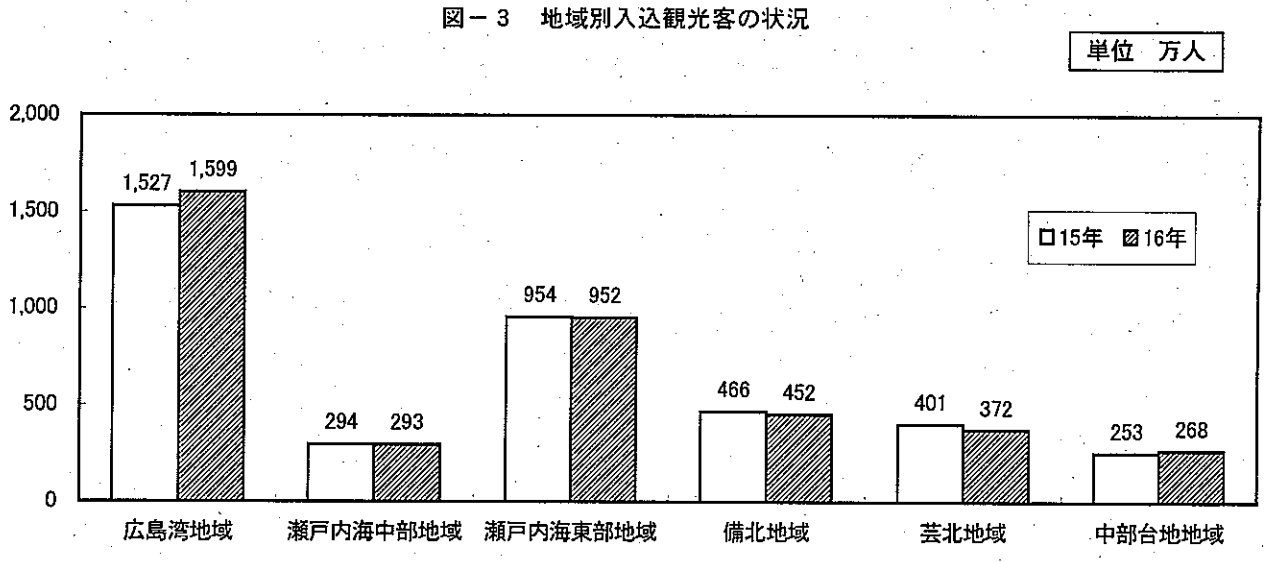
			対前年比				対前年比
1位	広島市	９４１万人	(＋１．９％)	6位	呉　市	１５８万人	(＋９．２％)
2位	福山市	３０２万人	(－０．５％)	7位	安芸高田市	１４６万人	(＋４．６％)
3位	宮島町	２６２万人	(－０．６％)	8位	廿日市市	１３２万人	(＋０．３％)
4位	尾道市	２４４万人	(＋１．７％)	9位	世羅町	１２５万人	(＋７．０％)
5位	三次市	１６３万人	(－３．１％)	10位	庄原市	１００万人	(＋０．２％)

上位１０地域では，広島市は大型観光キャンペーンの実施，広島国際アニメーションフェスティバル等の各種イベントの開催などにより１８万人増の９４１万人となっており，呉市は映画「海猿」のロケ地となったことによる宣伝効果等により１３万人増の１５８万人，世羅町は観光花農園の観光客が増大したことにより，８万人増の１２５万人となっている。

③ 地域別入込観光客の状況（図－３）

地域別では，広島湾地域は７２万人（前年比４．７％），中部台地地域は１５万人（前年比６．０％）増加しているが，備北地域が１４万人（前年比△３．０％），芸北地域が２９万人（前年比△７．２％）の減少となっている。

図－３　地域別入込観光客の状況



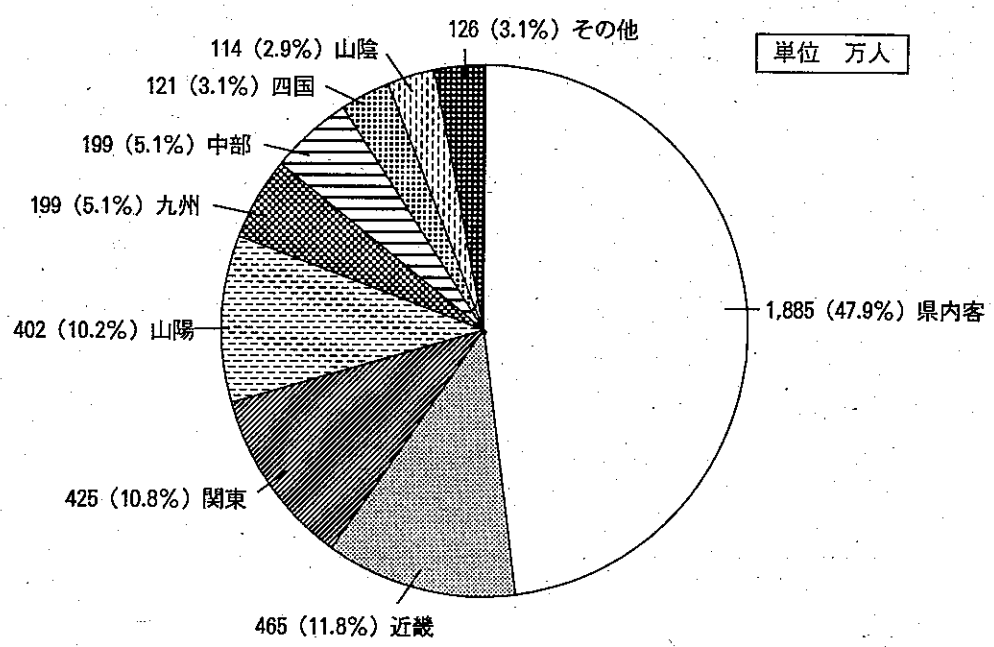
（３）発地別入込観光客の状況（図－４）

① 県内・県外観光客

県内観光客数	１，８８５万人	（前年比　－０．３％）
県外観光客数	２，０５１万人	（前年比　＋２．４％）

全体の入込観光客数に占める発地別の割合は，県内観光客が４７．９％であり，県外観光客は「近畿地域」１１．８％，「関東地域」１０．８％，「山陽地域」１０．２％，「九州地域」５．１％，「中部地域」５．１％，「四国地域」３．１％，「山陰地域」２．９％の順になっている。

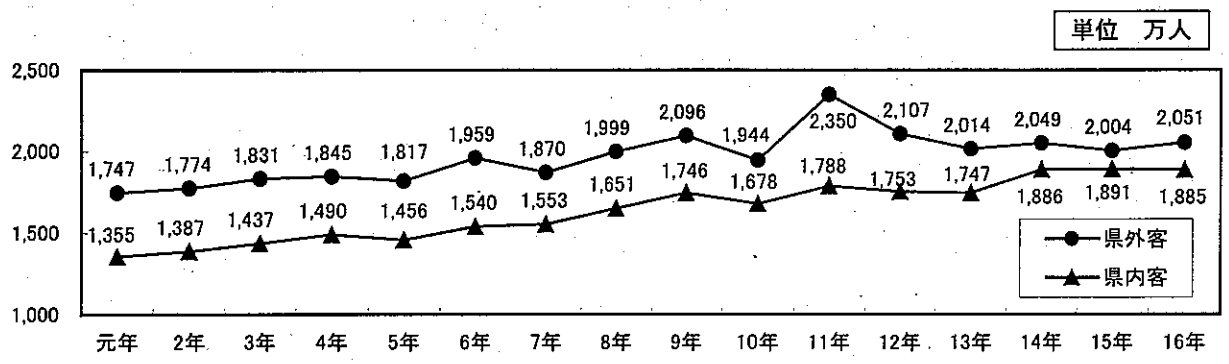
図－４　発地別入込観光客の割合



② 県内・県外観光客の推移（図－５）

県外観光客数は平成１１年以降，６年連続で２，０００万人を超えており，県内観光客数は平成１４年以降，３年連続１，８００万人台となっている。

図－５　県内・県外観光客の推移

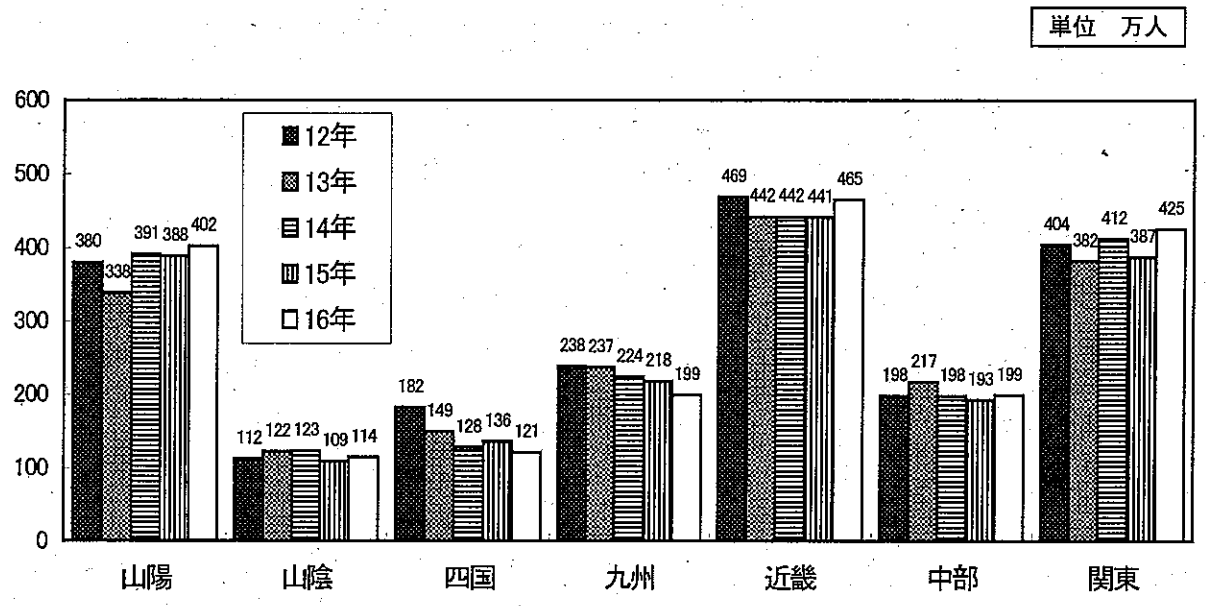


③　県外観光客の主な発地別状況（図－６）

来県する観光客の多い地域は，「近畿地域」４６５万人，「関東地域」４２５万人，「山陽地域」４０２万人の順である。

前年と比べた場合，「関東地域」からは３８万人，「近畿地域」からは２４万人の増加となっており，一方で，「九州地域」からは１９万人，「四国地域」からは１５万人の減少となっている。

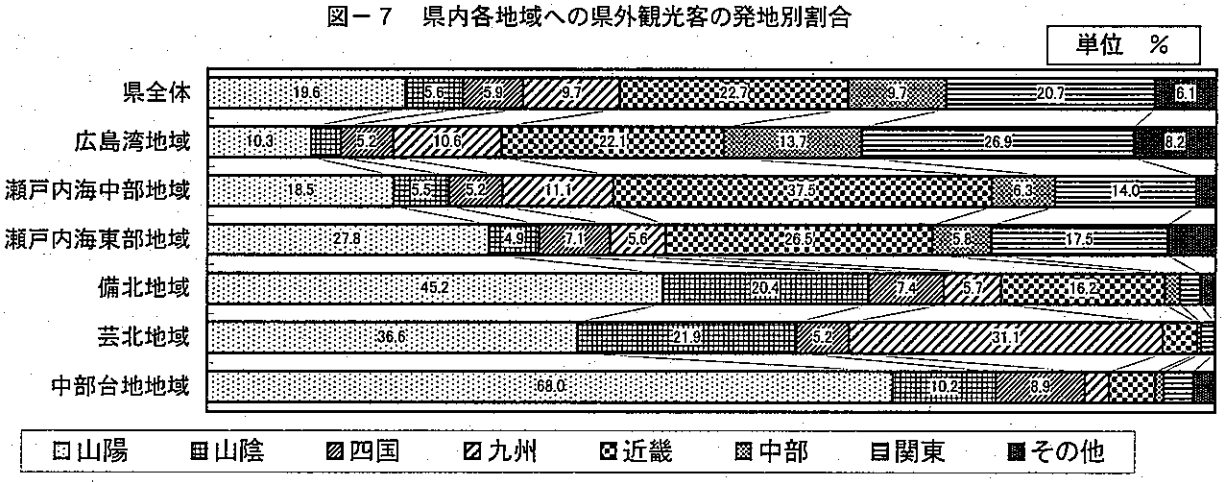
図－６　主な発地別県外観光客の推移



④　地域別発地別県外観光客の状況（図－７）

広島湾地域は「関東，近畿地域」など大都市圏からの観光客が高い割合を占めている。また，瀬戸内海中部地域は「近畿地域」から，瀬戸内海東部地域は「山陽，近畿地域」から，備北，芸北及び中部台地地域は「山陽，山陰地域」といった近県からの観光客が高い割合を占めている。加えて芸北地域では，スキー客などによる「九州地域」からの観光客の割合が高い。

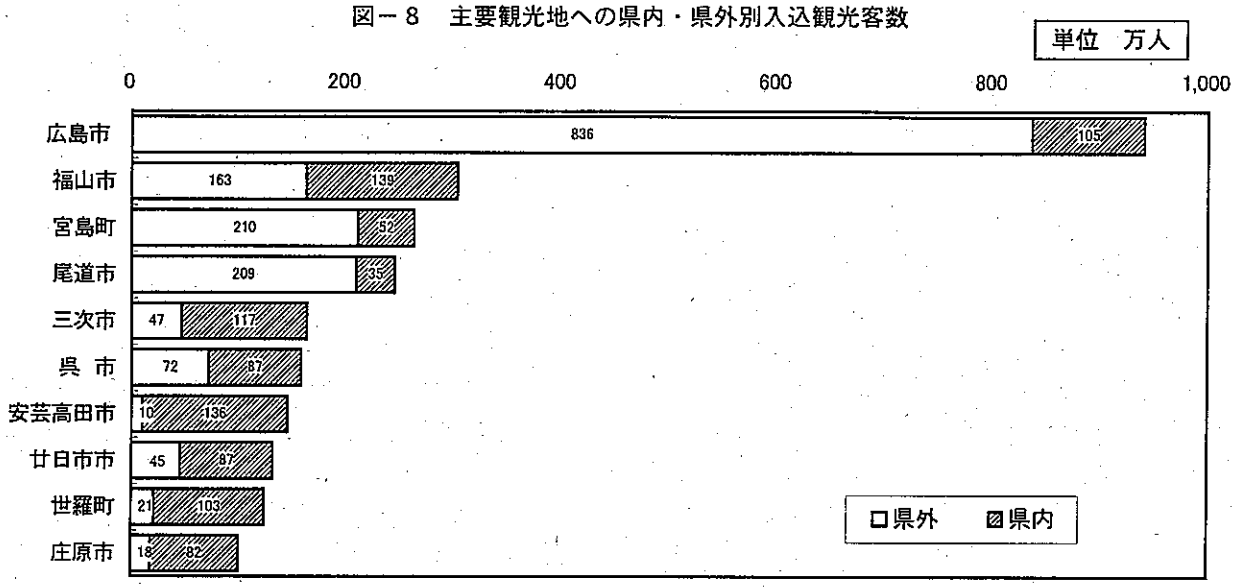
図－７　県内各地域への県外観光客の発地別割合



⑤　主要観光地への県内・県外別入込観光客の状況（図－８）

入込観光客数の上位１０観光地のうち，県外客の比率が県全体の５２．１％を上回っているのは，広島市（８８．８％），尾道市（８５．７％），宮島町（８０．２％），福山市（５４．０％）の４市町であった。

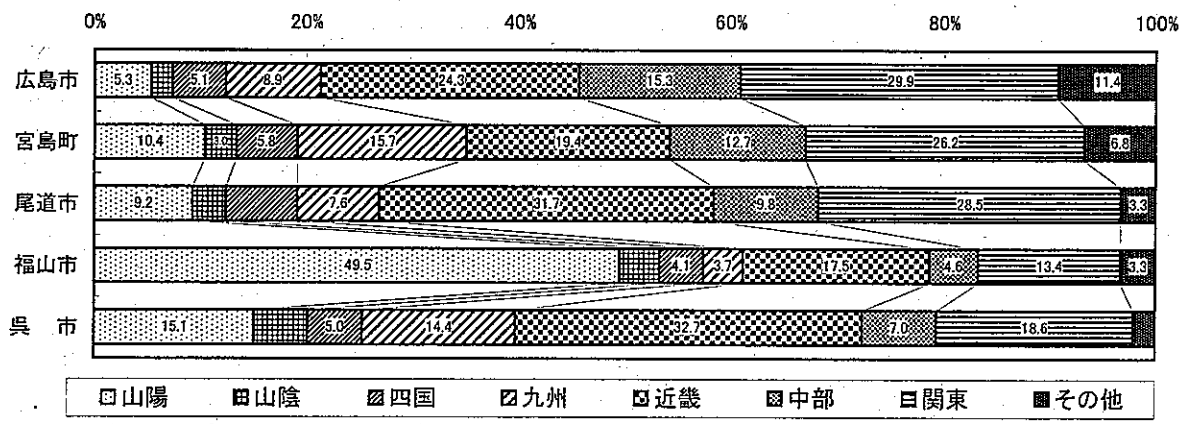
図－８　主要観光地への県内・県外別入込観光客数



⑥　主要観光地への県外観光客の発地別状況（図－９）

県外からの入込観光客数の上位５観光地別に見ると，広島市，宮島町，尾道市，呉市については「関東，近畿地域」の大都市圏から，福山市については「山陽地域」など近隣地域からの観光客が高い割合を占めている。

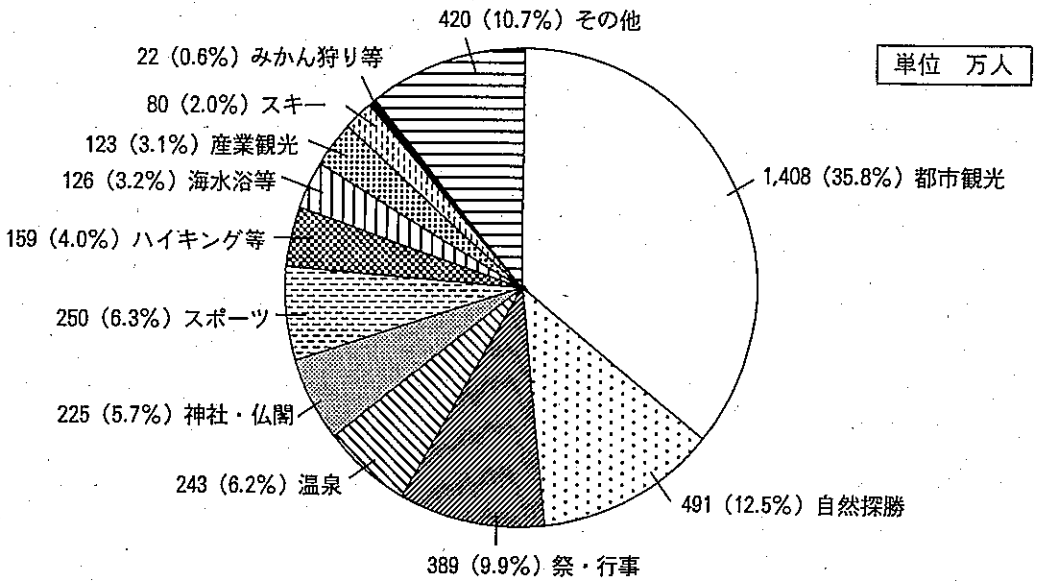
図－９　主要観光地への県外観光客の発地別割合



（4）目的別入込観光客の状況（図－１０・１１）

目的別では，「都市観光」が３５．８％と最も高く，次いで「自然探勝」の１２．５％，「祭・行事」の９．９％となっている。

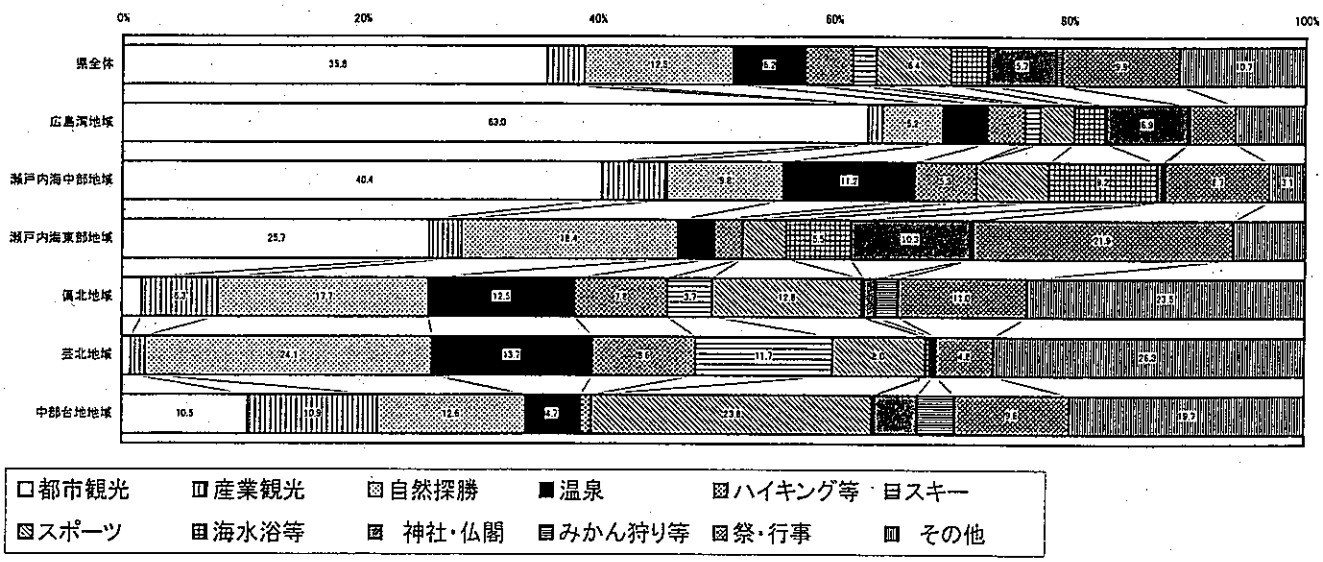
図－１０　目的別入込観光客割合



(注)　都市観光：都市を見たり，都市で学ぶことを目的としたもの
　　産業観光：工場見学，特産品づくりを目的としたもの

次に，地域別に目的別観光客の割合を見ると，広島湾地域及び瀬戸内海中部地域では「都市観光」が高い割合を占めており，瀬戸内海東部地域では「都市観光」，「自然探勝」，「祭・行事」がそれぞれ２０％程度の割合となっている。また，備北地域では「自然探勝」，「温泉」，芸北地域では「自然探勝」，「スキー」，「温泉」，中部台地地域では「スポーツ」が高い割合を占めている。

図－１１　地域別目的別入込観光客の割合



（５）旅行形態別入込観光客の状況

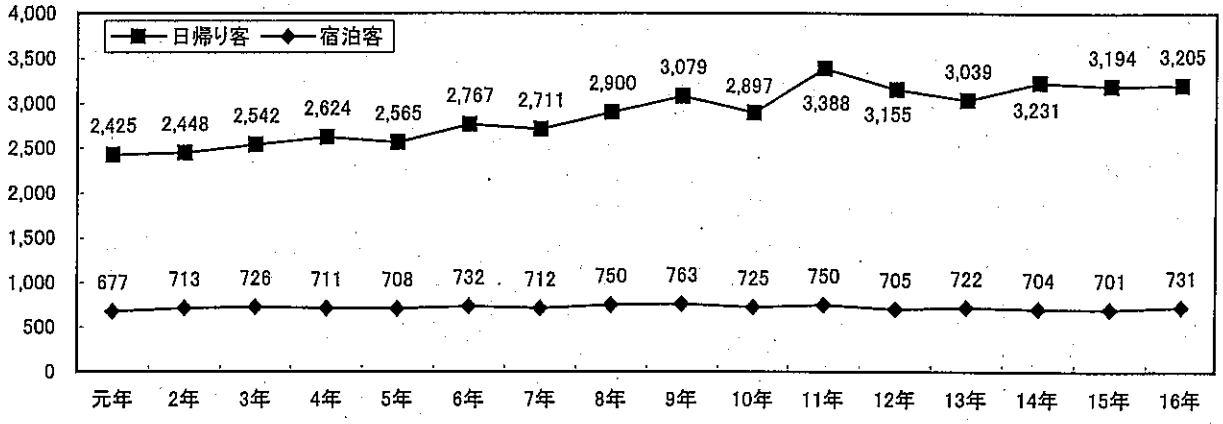
① 日帰り客・宿泊客の状況（図－１２）

入込観光客のうち日帰り客数は３，２０５万人で，前年と比べると１１万人（０．３％）増加している。

一方，宿泊客数は前年に比べて３０万人（４．３％）増加し，７３１万人となっている。

図－１２　日帰り客・宿泊客数の推移

単位　万人



② 地域別日帰り客・宿泊客の状況（表－２）

地域別にみると，日帰り客については，前年と比べて広島湾地域，中部台地地域で増加している。

また，宿泊客については，広島湾地域，瀬戸内海中部地域で増加している。

表－２ 地域別日帰り客・宿泊客の推移

（単位　万人，％）

区　分	日帰り客				宿泊客			
	平成15年	平成16年	増　減	対前年比	平成15年	平成16年	増　減	対前年比
広島湾地域	1,142	1,187	45	3.9	385	412	27	7.0
瀬戸内海中部地域	239	233	△ 6	△2.5	55	60	5	9.1
瀬戸内海東部地域	785	782	△ 3	△0.4	169	170	1	0.6
備北地域	402	390	△ 12	△3.0	64	62	△2	△3.1
芸北地域	381	352	△ 29	△7.6	20	20	0	0.0
中部台地地域	245	261	16	6.5	8	7	△1	△12.5
広島県全体	3,194	3,205	11	0.3	701	731	30	4.3

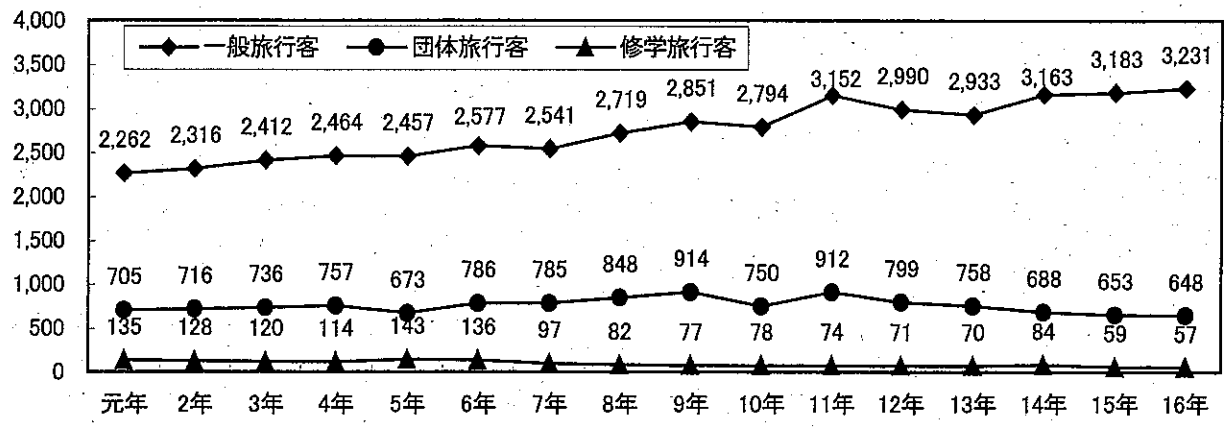
③　一般客・団体客・修学旅行客の状況（図－１３）

入込観光客を一般客，団体客，修学旅行客別にみると，前年と比べ一般客は４８万人（１．５％）の増加となっているが，団体客については，５万人（△０．８％），修学旅行客は２万人（△３．４％）の減少となっている。

（注）団体客：10人以上の団体旅行客

図－１３　一般・団体・修学旅行別入込観光客数の推移

単位　万人



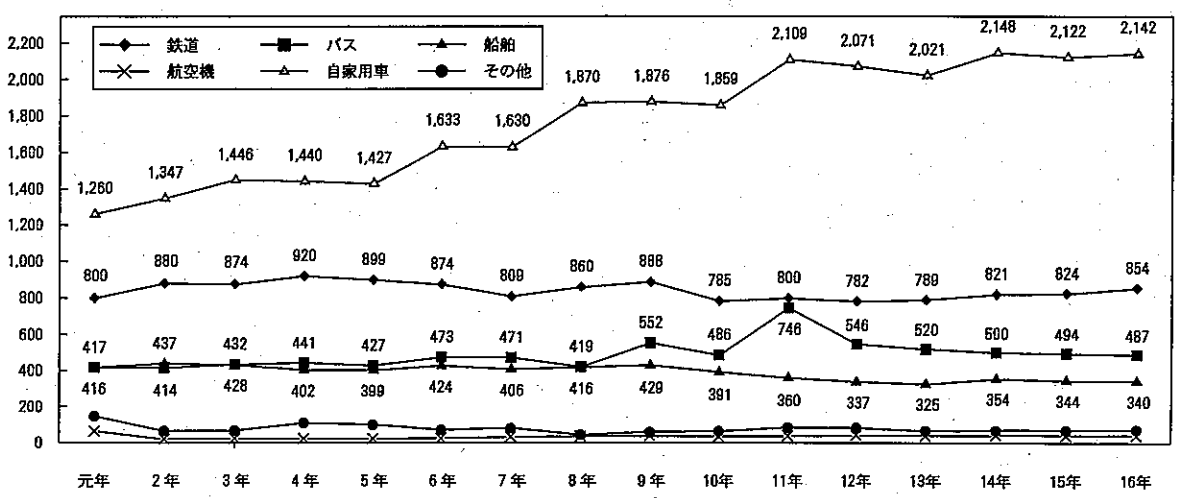
（６）交通機関別入込観光客の状況（図－１４）

入込観光客の利用交通機関をみると，自家用車を利用したいわゆる「マイカー客」が前年に比べ２０万人増加し，２，１４２万人と最も多い。マイカー客は観光客全体の５４．４％を占め，平成１１年以降２，０００万人を超えている。また，鉄道利用者については，前年に比べて３０万人（３．６％）増加している。

一方，バス利用者は，前年に比べて７万人（△１．４％），船舶利用は，前年に比べて４万人（△１．２％）減少している。

図－１４　交通機関別入込観光客の推移

単位　万人

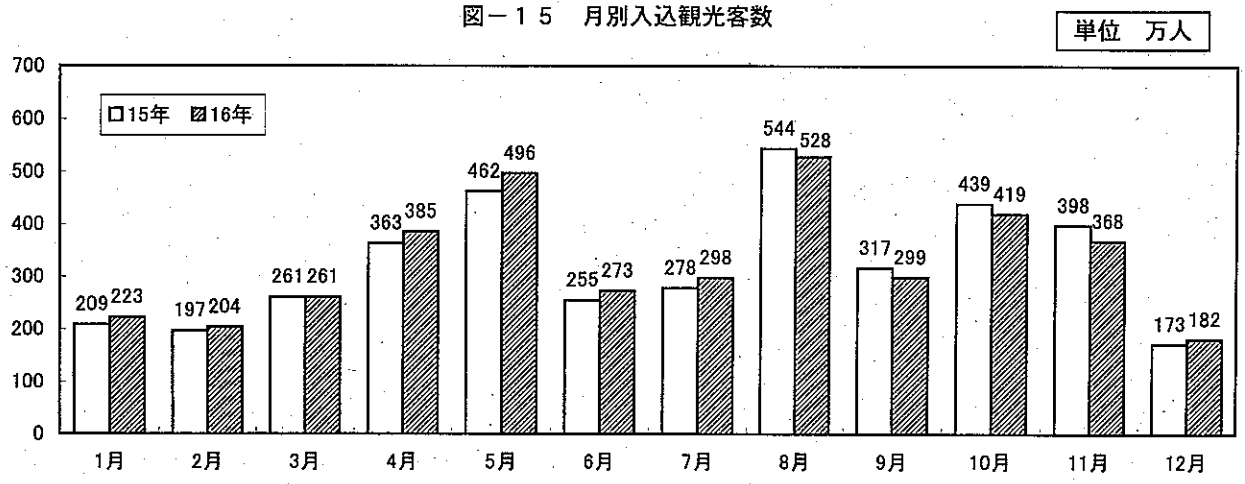


（7）月別・季節別入込観光客の状況

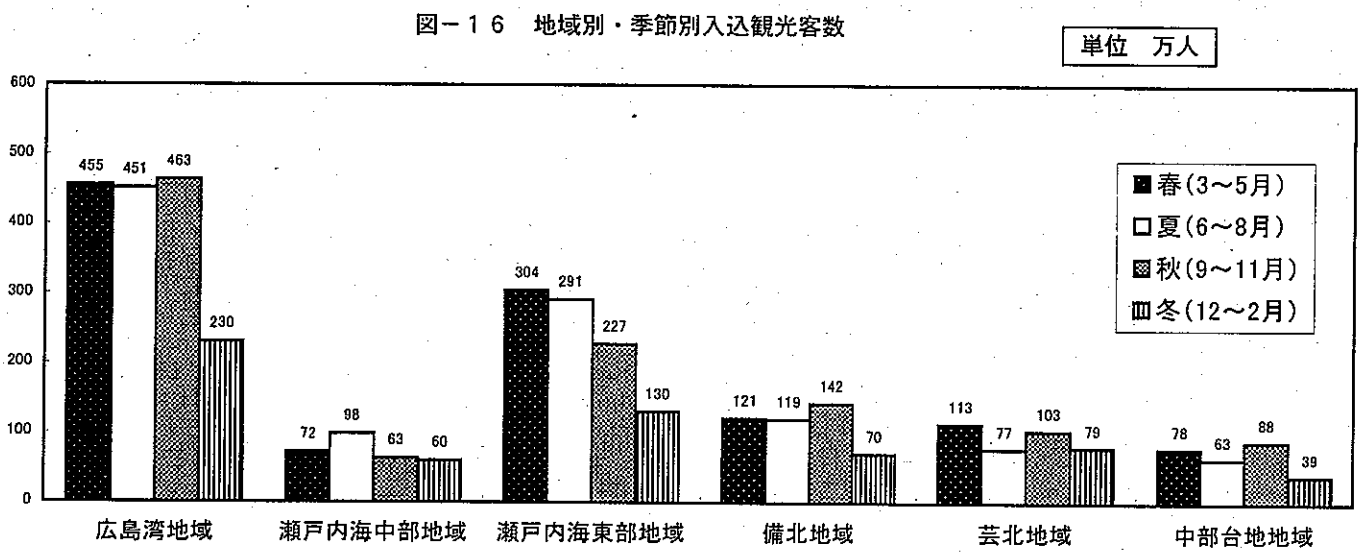
① 月別入込観光客の状況（図－１５）

月別に見ると，最も観光客が多かったのは，８月の５２８万人，次いで５月の４９６万人，１０月の４１９万人となっている。

図－１５　月別入込観光客数



② 地域別・季節別入込観光客の状況（図－１６）

季節別に見ると，広島湾，備北，芸北，中部台地地域においては，秋に観光客が最も多くなっている。また，瀬戸内海中部地域においては海のシーズンである夏に，瀬戸内海東部地域においては春に観光客が多くなっている。

図－１６　地域別・季節別入込観光客数